

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第9回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

① 令和3年度地域活動支援事業の採択方針等の検討について

3 開催日時

令和3年1月25日（月）午後6時30分から午後7時50分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：青木正紘（会長）、井澤裕一、上野秀平、玄蕃郁子、高橋清司（副会長）
立入真太郎、田中利夫、塚田春枝、樋口里美、松山公昭（欠席2人）
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

- ・ 挨拶

【山崎主事】

- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：樋口委員

次第 2 議題「(1) 協議事項」の「① 令和 3 年度地域活動支援事業の採択方針等の検討について」に入る。本日は来年度の地域活動支援事業の募集に向けて、高士区の「採択方針」「審査方法」について検討を行う。まず「採択方針」の検討について、事務局に説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料 1、参考資料 1 に基づき説明

【青木会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

協議に入る。最初に「採択方針」についてである。

第 6 回地域協議会の中で、毎年同じ内容の事業が提案されているとの話があった。極端な話として、同じ内容の事業については、次年度以降は補助を認めないといった案も出た。一方でこの地域活動支援事業には、地域のいろいろな事業の遂行にあたり資金面でかなり依存しているという実態もご存知かと思う。そういったことも含めて、今後どうしていくかということになる。同じ内容の提案については認めないといった意見もあったのだが、それをしてしまうと何も提案が出てこないような気がする。そのため同じ提案がされても仕方がないと思っている。それでよいか。

(よしの声)

【松山委員】

採択方針については、あくまで大まかな内容ということであり、あまり細かく決めてしまうと提案が出てこないことも考えられるため今年度と同様でもよいと思っている。

【高橋副会長】

今年度の採択方針は、高士区の問題ではないかと思う点を基に、「集まれ！子育て世代」と「人を呼べる新たなまつり」とテーマを決め、テーマに準ずる提案については加点をした経緯があると思う。今年度これまでに行った協議会では、高士区にこのようなことが必要ではないかとの問題提起が数多く出されたかと思う。それを反映させて令和 3 年度の募集テーマとしてはどうかと考えた。今の流れでは令和 2 年度と全く同じ募集テーマになると思うのだが、果たして同じでよいのか疑問に思った。

【松山委員】

令和元年度と令和２年度の提案状況を比較すると、令和元年度は川上善兵衛翁に関する提案や高士地区の歴史に関連した提案があったが、今年度は提案されていない。何度も発言しているのだが、方針は１年で変えるのではなく２年程度は同じものにして、３年目に見直すようにしてはどうかと思う。今回採択された提案についても、どこかで総括されると思うのだが、自分は毎年同じような提案があってもよいと思っている。

【上野委員】

採択方針については、令和２年度は資料記載のとおり行ってきたわけである。自分は今年初めてであったため、どのように審査を行えばよいのか分からなかったが、他の委員と意見交換しながら採択を行ったところである。令和３年度は新たなテーマにするのではなく、令和２年度に出たいろいろな課題を踏まえて令和３年度も引き続き同じテーマで行っていけばよいのではないかと考えている。そうすれば内容が充実してくると思う。先ほど高橋副会長が発言したように、確かにいろいろな課題が出てきている。従ってそれらを踏まえた考え方で採択していけばよいと思う。

【青木会長】

他に意見はあるか。

【松山委員】

今年度は「このような採択方針であるため、提案してほしい」といったかたちで進めてきたわけである。テーマを変えても新しい事業が急に提案されてくるとは考えられない。

【青木会長】

今年度は特定テーマを設定して進めてきたため、来年度はその深掘りをして同じような方針で進めていくということである。

【松山委員】

例えば、今年度地域活動支援事業を活用した団体に対して、今年度の活動の感想や来年度以降の活動の見通しなどを聞く必要があると思う。評価して今後はどうしていくのか考えることが当然の流れである。

【立入委員】

事務局に質問である。勉強不足で申し訳ないのだが、地域活動支援事業というもの

は、いつ頃から始まっている事業なのか。

【本間センター長】

平成 22 年度からである。

【立入委員】

平成 22 年度ということは、10 年近く続いているということである。先ほどから意見があるように、毎年同じ事業が継続されている状況の中で、そういった状況をもう少し深掘りしたほうがよいとの意見もあるかと思う。しかし、中には平成 22 年度より前から行われている地区の事業もあるわけだが、そういった事業は、地域活動支援事業が開始される前も他の補助金を使用して事業をしていたのか。そういったことが分かる委員はいるか。

【上野委員】

体育協会の一員として回答する。平成 22 年度以前については、高士地区体育協会に賛助金としていただいた予算の中より、事業を行っていた。

【立入委員】

あくまでも補助金であるため、事業が盛り上がっていけばそもそも補助金はいらなはずである。補助金に依存している事業はいつかは終わっていくと思うため、それを何かしら考えていかなければならないと思っている。ただその中で、なかなか新しい事業が出てこないということであれば、今ある事業を継続することも大事であるため、それをどのように発展させていくのかということが必要になってくる。

今回思ったこととして、ヒアリングの場で委員が事業に対して意見があったとしても、必ずしもその意見が正しいというわけではないのだが、それが活かされていないというか、団体の中で上手く回っていないような感じがした。そのあたりがもう少し改善されると、継続的な事業もよいと思う。

また、新しい事業もやはり必要かと思う。先月の会議で協議した中で、高士スポーツ広場の話題があったと思う。それを今後の 4 年間で話し合っても、話し合っただけで終わってしまわないように、せっかく地域協議会でテーマとして話し合った話題であるため、「高士スポーツ広場を活用して地域を活性化させよう」といった内容も 1 つのテーマとして募集しても面白いように思う。どのような提案が出るのか、あるいは提案が出ないかもしれないが、せっかく地域協議会の場に出た話題であるため、高士地区の住民に投げかけても面白いのではないかと考えている。

【青木会長】

そういったことは今後ぜひやっていければと思う。毎年同じ事業を行っていくために地域活動支援事業を使うことは確かに問題があるように思うのだが、地域協議会としてもそういった事業をチェックするために、ヒアリングやそれ以外のところでも、反省というか、補助金をどのように使ったのかを確認していく必要があると思う。

他に意見等あるか。

【玄蕃委員】

任期の最初に配布された紫色の冊子の中に、他区の採択方針が記載されている。大変に細かく具体的な地区もあれば、高土区は割と短い。具体的な「集まれ！子育て世代」等の記載はあるが、他の地区では環境に関するもの等、もう少し詳細に記載している。どれが地域住民にとってよいのかをずっと考えていた。だが、やはりその地区ごとで明確にしたほうがよい地域と、そうでない地域もあるのかと思った。もしかすると高土地区は、人の集まりというか、何かをやる際の協力体制、地域で子育てをやる気持ちといった部分では、明記しなくとも分かり、人が集まる地域なのではないかと思った。そのため前期の地域協議会では、あえて他区のように細かく記載はせずにこの2つのテーマを挙げたのだと思う。ただ今年度については、該当する事業が少なかったと思う。子育て等、もう少し違う事業が提案されてもよいのではないかという思いはある。そのため、2つのテーマについてはもう少し明確にしたほうがよいと思う。明確にしても提案されてこないのであれば、やはりそれだけの盛り上がりがないというか、地域住民がまだそこまで考えていないのか、もしくは、そういった事業を実施しなくとも自分たちの地域の中でできていると考えているのか、いずれかだと思う。

基本的には自分も、2年目でテーマを新たに作るよりも、1年目を踏襲しながらやっていく方向性でよいと思う。だが、活動団体の人たちが、もう少し自分たちの事業の明確化というか、今後も続けていくためにはどういう点がポイントなのかといった反省等をする必要があると思った。それをきちんとせずに次年度の募集をかけてしまうと、また同じような提案が出てくるような気がする。そういった意味で、活動団体から事業評価や今後の見通しを聞く機会を設けてもよいのではないかと思った。

【青木会長】

例えば、ヒアリングの時にもう少し厳しくチェックしていくことはできると思う。提案前に自分たちが事前にチェックするわけにもいかないため、チェックするとすれ

ば、ヒアリングの段階で「昨年と同様ではないか」「新規性があるのか」「本当に必要なのか」といったことをチェックしていく必要があるような気がする。

事務局より補足願う。

【本間センター長】

今ほど、青木会長が発言した内容は大事だと思う。また事業実施後には各提案団体から「実績報告書」を提出してもらっている。実績報告書では今回実施した事業結果を3段階で評価し、今後の見通しを記載する欄もある。そこで1度検証されている。実績報告書は今、高士区地域協議会には配布していないのだが、委員より見ていただいて新年度に提案があった際の審査に活かすこともできるのではないかと考えた。

【青木会長】

意見をまとめると、来年度についても同じ採択方針とするが、ヒアリング時にももう少し細かなチェックをしていく必要があるということでしょうか。

【松山委員】

高士スポーツ広場の活用について、ルール上、地域協議会が地域活動支援事業に提案することはできないのか。

【本間センター長】

地域協議会は提案団体にはなれない。

【松山委員】

他の誰かが提案するということか。

【本間センター長】

そうである。

【青木会長】

高士スポーツ広場については、来月以降、自主的審議事項として審議する中でどのように進めていくのかを検討していくことになるかと思う。

採択方針については今年度と同じとし、特定項目として挙げた2テーマについても、同様として加点措置をしていくこととしてよいか。

【松山委員】

特定項目を今年度と全く同じとするのではなく、例えば、「人を呼べる新たなまつり」ではなく、「たくさんの方が集える集いをしませんか」といったものとしてはどうか。あるいは「新たなまつりを提案しませんか」といったような文言にすれば提案する側

も分かりやすいように思う。

【青木会長】

必ずしも同じテーマではなくてもよいと思うのだが、基本的な考え方として、子どもたちや子育て世代を主体に考えることをベースにして募集するということである。根本にそういった考えがあれば、テーマ名をより分かりやすく変えても当然よいと思う。

次の項目に移ってよいか。

(よしの声)

資料裏面に入る。「補助率・補助額」について、意見等あるか。

【高橋副会長】

補助金の限度額については「上限なし」となっているのだが、これは市で決めたのか。それとも、各区で決めたものなのかを確認したい。

【本間センター長】

上限額については、高土区に配分された金額が上限額になる。地域協議会として上限額の設定が必要であれば、その範囲内で決めていただければよいと思う。

【高橋副会長】

上限額がなければ、高土区への配分額 490 万円の中で、ある 1 事業だけで 200 万円・300 万円の提案をすることも可能なのか。

【本間センター長】

可能である。

【青木会長】

「補助率・補助額」について、他に意見等あるか。

(発言なし)

490 万円の配分額内で「上限なし」ということである。「補助率・補助額」についても、令和 2 年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に「募集期間」について意見を求める。

【松山委員】

令和 2 年度と同様でよいと思う。

【青木会長】

「募集期間」については、令和2年度と同様でよいと思うのだがどうか。

【松山委員】

提案がされないため募集期間を伸ばすということはないと思う。提案は募集期間中にされるため、それほど深く考えなくてもよいと思う。

【青木会長】

資料に記載されている「4月23日までの23日間」と「4月26日までの26日間」で採決を取る。

「4月23日までの23日間」とすることに賛成の委員は挙手願う。

(1人挙手)

次に、「4月26日までの26日間」に賛成の委員は挙手願う。

(8人挙手)

では、「4月26日までの26日間」に決定する。

次に「配点」に入る。高士区の配点としては、「公益性」と「参加性」に重点を置き、各10点としており、それ以外の「必要性」「実現性」「発展性」は各5点としている。毎年配点を変えるのはいかななものかとも思うが、何か意見等あるか。

(発言なし)

これまでの反省の中で、配点に関する問題点は出なかったように思う。

【上野委員】

やはり高士区としては「参加性」は非常に大事な点だと思うため、「参加性」については傾斜配点で2倍の10点としたほうがよいと思う。また「公益性」についても、一部の人のみではなく、多くの人に参加してもらえる事業を作ることが大事だと思うため傾斜配点としたほうがよいと思う。従って、令和2年度と同じような配点がよいと思う。

【青木会長】

他に意見等あるか。

(発言なし)

では、「配点」についても令和2年度と同様とする。

次に「ヒアリング」についてである。ヒアリングについてはいろいろな意見があった。これまでのヒアリングの状況を見ていると、大抵の事業は「そうか」という感じで通ってきているように自分は感じている。

【松山委員】

例えば、前年度と同じ事業が提案された際に「前年度との変更点」や提案団体の「意気込み」を聞いてはどうか。前年度と全く同じ内容では困るため、「前年度はこうであったが、次年度はこういったことを頑張る」といったことを確認してはどうか。

【青木会長】

ここで確認したいことは、全事業についてヒアリングを実施するか否かについてである。他に意見等がなければ、高士区としては、令和 2 年度と同様に全事業についてヒアリングを実施し、実施にあたっては、これまで出た意見を踏まえて審査をしていくこととする。

次に「加点措置」についてである。令和 2 年度は「特定事業への加点措置」ということで、採択方針のテーマに適合する事業には 5 点の加点を行った。「加点措置」について意見を求める。

【松山委員】

この 5 点の加点は、配点の 5 点とは別なのか。

【青木会長】

違う。

他に意見等あるか。

(発言なし)

5 点の加点がなくとも、採択される事業は採択されると思うが、募集テーマを今年度と同様とすることがすでに決定しているため、加点についても同様としてよいか。

(よしの声)

次に「追加募集」についてである。今年度は 1 件の追加提案があった。追加募集については実施したほうがよいと思っているがどうか。

(よしの声)

では前年度と同様とする。以上で採択方針の検討については一応終了したが、最後に何か意見等あるか。

【玄蕃委員】

採択方針について、今年度を踏襲すればよいと発言したのだが、「人を呼べる新たなまつり」は「まつり」に限定している。「まつり」と限定してしまうと、なかなか新たに手を上げてくることは難しいと思う。これは「まつり」でなければならなかったの

か。今更で申し訳ないが、令和 2 年度の採択方針を検討した際はどのような話だったのか。地域づくりのためのイベント等ではなく「まつり」でなければ駄目だったのか。

【青木会長】

前年度の協議内容としては、いわゆる新規性が欲しいと考えていた。その結果として上がったものが「まつり」であった。地域を活性化し多くの集客があるようにということで、前期の協議会では「まつり」とのテーマをあげた。個人的な意見としては、「まつり」ではなくとも「人をたくさん集められる新たな集まり」などでも、当然よいと思っている。

【松山委員】

「まつり」とは「雪まつり」等があるため、出た意見なのだと思う。例えば「新たなイベント」でもよいと思う。また「新たな」との文言を付けてはいるが、今まで行ってきたことでもよいと思う。そのため、自分は「まつり」より「イベント」の方がよいと思っている。

【塚田委員】

現在のコロナ禍を考えると、いわゆる「まつり」を実施することはなかなか難しいとも思う。今の流行りの言葉で言うと「交流人口を増やす」というような文言を入れてもいいと思う。事業のやり方としても、地域の特定の人だけに負担がかかることがないように実施する仕組みが理想である。だが、具体的に何か案があるということではない。

【青木会長】

特定テーマについては、「まつり」に限定するのではなく、文言を変更してはどうかとの意見が出た。「まつり」に拘る必要はないと思っている。

【本間センター長】

今ほど話のあった特定のテーマを「人を呼べる新たなまつり」としない場合、別のどのような文言とするのかを決定してほしい。それを決定しなければ募集要項を作成することができない。例えば、今ほど意見の出た「イベント」や「集い」に変更して、「人を呼べる新たなイベント・集い」とするのか、あるいは全く違った文言に変更するのかを決定してほしい。

【立入委員】

それは今日決定しなければ間に合わないのか。次回の協議会までの宿題とはできな

いのか。

【本間センター長】

2月中には決定しなければならない。3月に次年度の地域活動支援事業の事前説明会を開催するため、2月に地域協議会を開催するのであれば次回でも間に合うと思う。

【青木会長】

これまでに出了意見としては、「イベント」「集い」「集まり」といった文言があった。これについては、次回2月の協議会にて正式に決定することとしてよいか。

(よしの声)

では、特定テーマの文言については次回の協議会にて引き続き検討することとする。

【山崎主事】

採択方針の文言については、本日の意見を基に正副会長と事務局で協議し、次回の協議会で提案させていただきたいと思うが、よいか。

(よしの声)

【青木会長】

次に「審査方法」の検討について、事務局に説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料2、参考資料2・3に基づき説明

【青木会長】

事務局より説明のあった資料の4項目について、今年度の審査過程を踏まえ、指摘や提案等あれば発言願う。

(発言なし)

では、今年度と同様に次年度も審査していくということによいか。

(よしの声)

以上で次第2議題「(1) 協議事項」の「① 令和3年度地域活動支援事業の採択方針等の検討について」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：2月18日（木） 午後6時30分から 高土地区公民館 大会議室
- ・内容（案）：自主的審議について
- その他、何かあるか。

(発言なし)

【高橋副会長】

・閉会の挨拶

【青木会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。